

銀歯材料高騰で県内歯科医苦境

「虫歯治療は赤字覚悟」

ロシアによるウクライナ侵攻の影響などで虫歯治療の詰め物として使う銀歯の材料価格が高騰して、山梨県内の歯科医院は国が定めた材料費より少ない金額で治療する「逆さや」の状態に陥っている。銀歯の素材は価格が上昇傾向だったが、ロシアが一部素材の主要産出国で、経済制裁の行方によっては調達にさらに困難になる恐れも。材料費の穴埋めが経営を圧迫する状況で、歯科医師は「治療するほど赤字が膨らむ」と悲鳴を上げている。

〈仲沢篤志〉



銀歯素材の価格高騰について話す梅北和一所長

山梨県笛吹市御坂町八千歳

ロシア制裁で調達不透明に

「身を切るほかない状況が続いている」。笛吹市の御坂和一所長は25日、詰め物として使う貴金属「金銀パラジウム合金(金パラ)」の価格高騰に、厳しい表情を浮かべた。この日の30日当たりの金パラ価格は9万7千円。国が材料費として認める保険償還価格は8万8530円で、差額は1万円ほど。詰め物を使うたびに、赤字になる状況だ。

ロシアによるウクライナへの軍事侵攻以降、市場価格は1日約5千円ずつ上がり、3月中旬には約13万円に高騰。持ち出しが4万円に上る日もあった。診療所では月に150ほど使用し、負担は大きい。プラスチック素材の代用品もあるが、用途に限られるという。「治療に金パラは不可欠。人件費を削るわけにもいかず、丸々負担するほかない」と明かす。

金パラは歯科医のみが取り扱ってきたが、自動車産業などが排ガス装置に使用するな

ど需要が拡大して価格が上昇。逆さやは10年ほど前から起きていた。さらにウクライナ侵攻で金が投機の対象となり、価格が高騰。ロシアはパラジウムの主要産出国で約4割のシェアを占め、各国の経済制裁もあって安定的な調達は不透明となっている。梅北和一所長は「30年くらい前と比べると10倍近い値上がり。ロシアが輸出しなくなるなどの事態になれば、立ち行かなくなる」と懸念する。

医師や歯科医師らが加入する県保険医協会は3月16日付で、国に対し、ウクライナ情勢で急騰する金パラ価格と保険償還価格の差を補填する緊急対応を要請。併せて患者負担が増えないよう対応を求めた。

県歯科医師会の三森幹夫会長は「歯科医にとって全国共通の悩みだ」と説明。4月の国の価格改定でも市場価格との差があり、「市場価格に即した国の対応が求められる」と話す。プラスチック素材などの詰め物に保険適用を拡大することや、質の向上も必要とした。「今後のウクライナ情勢や市場の動向を注意深く見ていきたい」と語った。